NPO Japan Alpine-Flora Preservation Association's Bulletin.

NPO法人 日本高山植物保護協会 JAFPA

2023.7.1 No.98

●JAFPAのすそ野をさらに広げる工夫
●令和5年度通常総会開催報告
●昭和大学北岳支部の活動便り
●静岡支部からの報告
●フォトコーナー
●高山植物一口メモ

北岳の全景と北岳山荘・北岳診療所
（写真提供：木内 祐二）

JAFPAのすそ野をさらに広げる工夫

副会長兼昭和大学北岳支部長　木内 祐二

2020 年春から続いた新型コロナ禍もようやく収束し、アウトドアの活動もほぼ制限がなくなり、会員の皆様ものびのびと行動できることに安堵されていることと思います。私が所属する昭和大学北岳支部は、昭和大学医学部生・看護学生を中心とした部活動組織の北岳診療部を母体としており、夏山期間に、南アルプスの北岳山荘に隣接する北岳診療所での診療活動に並行して、北岳周辺の貴重な高山植物の保護活動を行っておりますが、４年ぶりに本格的な部活動とともに、高山植物保護活動も再開できることとなり、学生ともどもワクワクしています。

岩科司会長のもと、ポストコロナの活動を開始するにあたり、これを機会に JAFPA のすそ野をさらに広げる工夫について例示させていただきます。すそ野を広げるとは、関心を持っていただく人や会員数を増やすこととともに、JAFPA 自身が関心を持つあるいは関連する領域を増やすこと、を意味しております。高山植物保護に関心を持つ人＝山好きとは限らず、広く「自然が好き」という人や、環境問題やボランティア活動に関心ある人の中には、JAFPA の活動に関心を持つ方も少なくないと思います。高山植物保護を広く生態系と自然環境の保護活動の一環ととらえ、日本の環境問題に関わる活動として、理系のみならず一般の大学生や高校生などの若者、一般市民、園芸（自然）･環境問題やボランティアなどに関心・興味を持つ団体や、これらの会に集まる方などにも知っていただくことです。

そのためには、JAFPA から社会への積極的な情報発信が必要ですが、コロナ禍の下で図らずも急速に進んだオンラインの技術や経験を活用し、例えばネットを介して一般の方に高山植物の魅力や保護活動とその課題について分かりやすく紹介する動画などを配信したり、対面での市民公開講座・シンポジウムを開催・配信してもよいかもしれません。また、環境保護や動植物の生態に関わる団体や専門学会などと協働して活動内容の発表や討議を行い、イベントを共催するなどの試みも、相互理解とすそ野を拡げるうえで有意義と思います。

高山植物保護を通して、新しい時代の環境保護のニーズに積極的に応える JAFPA としてさらに発展することを期待します。

令和5年度通常総会開催報告

事務局長：山本 義人

■通常総会

3年間続いていたコロナ禍での外出規制が解除されたことで、令和5年度の通常総会は豊橋市駅前の会議室を借りて行い、総会後は葦毛湿原で観察会を行うことになりました。

会場には岩科会長、木内副会長、中村本部長をはじめ10名の会員が来場してくれました。総会の審議を始める前に会長に開催のご挨拶をお願いし、環境省関東地方環境事務所野生生物課長の千葉康人様と山梨県環境・エネルギー部次長の雨宮俊彦様からの頂戴しているメッセージを、出席者の磯野理事と事務局広報担当の渡邉会員にそれぞれ代読していただきました。

事務局長が参会者10名と委任状及び/又は書面表決状の署名者263名の過半数の出席者273名により通常総会は成立することの報告を行い、審議にあたり議長と議事録署名人の選出をお願いしたところ、会長から事務局長がそのまま議長を務めるという提案があり承認され、続けて中村本部長と磯野理事が議事録署名人に選出されました。

議長は第1号議案の令和4年度事業報告と決算報告と第2号議案の令和5年度事業計画と収支予算案の審議を行うことを告げ、評決を求めたところ満場一致で承認され、審議は終了しました。

引き続き会の運営功労者への表彰を行った後、午後の葦毛湿原での観察会の説明を行って、11時25分に閉会しました。

表彰 新井和也氏(母の裕子さん)

表彰 中村祐太氏

■葦毛湿原観察会

昼食を済ませて午後1時半に葦毛湿原に集合してもらいました。集合場所の広場には葦毛湿原の植生回復作業にも参加されている静岡支部の古川会員が来てくれていました。

古川会員には今日の観察会の案内役をお願いしていたので、地元の仲間と午前中に下見をしてくれていました。予定時間になり林内の遊歩道を歩いて湿原入口に向かうと、前日の雨で水がぬかるんでいる場所もありましたが、この日は晴れ上がって観察日和の天気となり、湿原内の木道を時計回りで歩いて観察しました。

葦毛湿原観察会

湿地にはモウセンゴケとトウカイコモウセンゴケが花芽を出してきていました。モウセンゴケの葉は捕虫のため斜めに立ち上がりますが、トウカイコモウセンゴケの葉は立ち上がりません。花が咲けば、モウセンゴケは白花でトウカイコモウセンゴケは赤花なので見分けは容易です。

水草にまぎれトキソウが数株まとまって咲いているのが見られました。湿原に残されている木本植物のクロミノニシゴリとネジキの白い花も咲いていました。

モウセンゴケ

トキソウ

クロミノニシゴリ

ネジキ

湿原内を一回りしてから、林床のウスキムヨウランの花を観察しました。遊歩道沿いにソヨゴやイボタノキの花が、また林縁にはニョイスミレ（ツボスミレ）の変種で、葉っぱがブーメラン状のアギスミレが咲いていました。

少し離れたエンシュウムヨウランの咲いている場所に移動して、その近くに咲いていたタンザワウマノスズクサの花を観察していると、豊橋市文化財センター葦毛湿原担当の贄さんが古川会員を見つけ、「今日は何ですか」と声をかけてくれたので、葦毛湿原植生回復作業についてお話を聞く機会を持つことができました。お話の内容は豊橋市のホームページに葦毛通信として紹介されているのでご覧くださいとのことでした。

ウスキムヨウラン

タンザワウマノスズクサ

植生回復の話(贄氏)

午後３時半になったのでここでいったん解散として、残ってもう少し観察を続けたい人達で、山麓林内に咲きだしてきているというバイケイソウを見に行きました。そこの場所だけにギャップができて光が差し込んでいました。

湿原を通って戻る途中の木道で贄さんと再びお会いすると、「ヒメヒカゲが何匹か飛んでいましたよ」と教えてくれました。この時期はムカシヤンマも見ることができます。

集合した広場にハンマーダルシマーという楽器を紹介したいとストリート演奏活動されているAkiko さんの演奏を聴いてから帰路につきました。

■葦毛湿原考

葦毛湿原は、山麓の緩斜面に広がる湿原で、土壌が薄く、常に水が地表面を流れている湧水湿地で、山の上部の帯水層から徐々に水が流れ出して数本の沢となり湿地を潤し、湿地上部では、沢と沢をつなぐように等高線に沿って線状に湧水があり、緩やかな斜面を広く水が流れています。

葦毛湿原は、南方の暖地系植物や北方の寒地系植物、大陸系遺存植物が混在して見られる国内最大級の湧水湿地で、「東海丘陵要素植物群」の主要な生育環境となっており、葦毛湿原に自生する植物には、トウカイコモウセンゴケ、ミカワシオガマ、ヒメミミカキグサ、ミカワバイケイソウ、シラタマホシクサ、クロミノニシゴリの６種が確認されています。

葦毛湿原周辺の山は、江戸時代には藩有林として管理され、湿原は周辺村々の秣場（まぐさば）でした。明治時代になると、葦毛湿原は水田として開発され、藩有林は国有林となり、昭和 40 年代以後、スギ・ヒノキが植林されたことから、葦毛湿原周辺にあった湧水湿地のほとんどは森林化しました。葦毛湿原は湿地として大規模であったがゆえに近年まで森林化を免れていましたが、近年森林化が葦毛湿原中心部にも及ぶようになり、平成 25（2013）年から豊橋市教育委員会による大規模植生回復作業が行われるようになりました。

森林化が始まって積もった表土を剥ぐことで、その下に眠っている種子を発芽させて以前の植生を回復しようとする活動で、いったんは絶滅したとされたヒメミミカキグサやミカワシオガマなどの復活が確認されています。

草地を増やすため木を切って湿原を明るくしていますが、東海地方湿地の固有種クロミノニシゴリや湿性草原特有の絶滅危惧種ヒメヒカゲが吸蜜に訪れるイソノキは大切に残されています。

ヒメヒカゲ

イソノキの花

昭和大学北岳支部の活動便り

支部長：木内 祐二

オンライン講演会開催報告

令和 5 年 3 月 18 日（土）13 時～14 時 30 分に、日本高山植物保護協会昭和大学北岳支部主催の特別講演会「美しく希少な高山植物たち、植物園が取り組む保全の最前線」がオンラインで開催されました。昭和大学北岳診療部、昭和大学高山植物保護サークルの共催です。

講演された白馬五竜高山植物園責任者の坪井勇人氏は、日本高山植物保護協会理事、日本植物園協会理事を務められており、信州大学在学中から、北アルプス白馬岳を中心に、幅広くまた継続的に高山植物の保護活動に関わられています。

講演では、ご自身の学生時代からの自然保護活動、白馬岳周辺を中心とした多様で貴重な高山植物の美しい写真、スキー場を利用した白馬五竜高山植物園での多くの高山植物の栽培・育成と域外保全について幅広く紹介されました。

高山帯の絶滅危惧種の域内・域外保全を目的としたフィールド調査や高山植物の栽培の具体例とともに、近年では、メディアでも取り上げられたライチョウやタカネヒカゲなどの高山蝶の保全を目的とした食草としての高山植物栽培の取り組みについても、分かりやすく説明されました。

オンライン講演ということもあり、日本高山植物保護協会会員、昭和大学北岳診療部学生や OB を含め多くの方が参加され、講演後には活発な質疑応答もあり、高山植物の魅力と課題を共有するための実り多い講演会となりました。

令和 5 年度活動計画

昭和大学北岳支部は、新型コロナ禍などによる診療部活動の中止（令和 2 年度）あるいは縮小（令和 3・4 年度）により、高山植物保護活動の多くが制限されていました。

令和 5 年度は 4 年ぶりに夏季診療部活動を本格的に実施する予定であり、それに伴い北岳周辺の貴重な高山植物保護のための活動も学生部員を中心に積極的に取り組む予定です。

1）北岳診療所夏山活動期間（7 月後半～8 月中旬）の高山植物保護活動

①白根御池小屋、肩の小屋、北岳山荘に、高山植物保護を訴えるポスター（第 12 回日本高山植物保護協会昭和大学支部ポスターコンテストの入賞作品）を貼付

②北岳山荘を中心に高山植物の観察･調査と保護パトロール

③北岳登山道のゴミ拾い

2）高山植物保護活動に関する学習

昭和大学北岳診療部と昭和大学高山植物保護サークルの合同で、「第 12 回 高山植物とその保護活動に関する勉強会」を 2024 年 3 月に開催する。

3）広報、啓蒙活動

昭和大学内の部活動や高山植物保護サークル等のサークル、学生や教職員、および地域住民に、日本高山植物保護協会の会報等を広く配布し、入会を呼びかける。

第 12 回ポスターコンテスト

第 12 回ポスターコンテストは、2022 年 12 月から昭和大学内外で募集し、オンライン講演会の当日に、講演された坪井勇人氏にも審査に加わっていただき選考を行いました。

入賞作品を 2 点紹介します。左：田嶋ひな子さん、右：島田春花さん、いずれも昭和大学学生の作品です。

静岡支部からの報告

支部長：鵜飼 一博

サイエンスカフェ

令和５年３月４日、静岡県教育会館でサイエンスカフェを開催しました。

静岡支部長の鵜飼が講師を務め、聴講者は一般参加者を含め１５人。

ケーキを食べながら、コーヒーを飲みながらのアットホームな雰囲気の中、昨今の南アルプスにおける保全活動で得た下記の話題をスライドで説明。

話題１：　亜高山帯における植生変化

話題２：　様々な防鹿柵

話題３：　防鹿柵の効果

話題４：　さまざまなカメラによる記録

特にドローンで撮影された写真は、初めて目にするものばかりだったようで、関心を集めていました。

※植生回復の度合いの違いが明らかにわかります。

報告：鵜飼一博

クマガイソウ観察会

令和５年４月９日、掛川市内のクマガイソウ自生地等にて観察会を実施しました。静岡支部会員のほか、山梨県からの参加者もおり、総勢１２人。

雑木林に保護移植された場所、工業団地造成で消滅の危機にさらされている自生地、偶然地域で発見された群生地の３箇所を、現地ボランティア方達の案内で巡って来ました。

昨年発見された林道沿いの自生地では『自然に自生するクマガイソウを一般公開します。近年は乱獲や盗掘により減少傾向にあり絶滅指定危惧種に指定されております。ここはクマガイソウの貴重な自生地です。盗掘されないことを信じて一般公開に踏み切りました。マナーを守ってご覧になってください』とのメッセージの看板を設置して積極的に公開していました。

当地において、当日はNHKが取材しており、植物の保護活動をしているNPOの方達と我々も紹介され、夜と明朝の２回静岡地域で放送されました。

報告：清水和夫

フォトコーナー

◆ Facebookgroup ウ年フォトコン入選作品の紹介

ウサギギク（赤羽 みどり氏）

ユウバリソウ（浅川 昭氏）

ウサギギクと雷鳥親子（須田 善男氏）

◆ Facebookgroup 月間トップ画像の紹介

2022年９月：ウルップソウ（坪井 勇人氏）

2023年3月：セリバオウレン（堤 薫氏）

2023年4月：カイコバイモ（清水 和夫氏）

2023年5月：エゾエンゴサク（Takada Hiromi氏）

●高山植物一口メモ　ヒナザクラ　サクラソウ科

東北地方の高山の湿原に生える多年生草本。葉は小形で根ぎわに集まり、夏一本、まれに二本の直立する細長い花茎を出し、白色小形の柄のある花を散形状に開き、がくは５裂し緑色、花冠は白色で、中心部は黄色、花弁は５裂して広がり、裂片はさらに２裂する。

少しの風にも揺れる、か細くも美しい鄙（ひな）には稀（まれ）な美しい乙女のような花なのです。

雪の多い亜高山帯の湿原に咲くヒナザクラ、夏の一日、八幡平を訪れたとき、はじめて会った涼やかな白い花は、湿原に白い風を吹き渡らせて、立ち去りがたい思いにかられました。

（文と写真　大内京子）

令和５年７月１日発行
特定非営利活動法人 日本高山植物保護協会
住所：〒401-0304
山梨県南都留郡富士河口湖町河口 1672
電話：055-251-6180
携帯：070-1387-5274
E-mail アドレス：info@npo-jafpa.or.jp
HP アドレス：https://npo-jafpa.or.jp